

# かみす

Pick up

- ▶茨城県議会議員一般選挙
- ▶新型コロナワクチン接種

特集

まちの魅力再発見

## 息栖神社の新しい光と風

人と人をつなぐにぎわいの拠点

一年に数日、“一の鳥居”と“二の鳥居”越しに、夕日が沈む絶景を楽しむそうです。現在、市は「和と歴史、そして人と人をつなぐにぎわいの拠点」をコンセプトに、息栖神社周辺の整備計画を進めています。その中心となるのが旧柏屋旅館跡地にできる観光拠点施設。この施設から、常陸利根川の夕日を眺望できるとか。この整備計画と地域の歴史を紹介します。

AR

広報かみすが  
動き出す



[COCOAR]



アプリをダウンロードし  
表紙にスマートフォンを  
かざしてください。  
詳細は16ページ

特集

# 息栖神社の新しい光と風

人と人をつなぐにぎわいの拠点

江戸時代に東国三社詣の観光拠点として賑わった息栖神社周辺。時代は巡り、いま再び全国からの観光客が増えています。そこで市では、息栖神社周辺の整備計画を策定しました。今回は、地域の歴史を振り返りながら、整備計画について紹介します。



## にぎわいの拠点を目指す 整備計画

緑深い鎮守の森と、悠々と流れる常陸利根川。清らかな自然に抱かれて建つ息栖神社は、古くから地域の人々のよりどころであり、「神栖」という地名の由来にもなっています。息栖神社周辺は江戸時代以降、東国三社詣で大いに賑わいました。時代は流れ、近年になって再び東国三社詣がブームとなり、県外から訪れる観光客も増え、息栖神社への注目が高まっています。

市では、歴史と文化を尊重しながら、地域の人たちと訪れた人たちの交流の拠点づくりを目指す『息栖神社周辺整備基本計画』を策定。「和」と歴史、そして人と人をつなぐに「にぎわいの拠点」をコンセプトに、拠点施設、参道、船溜まり周辺の整備を実施することとしました。今回は、大切に語り継ぎたい息栖神社周辺の歴史や思い出話とともに、整備計画の概要を紹介します。

### 東国三社と柏屋旅館

ところで、息栖神社がなぜ東国三社の一つなのかご存じですか？そ

れは「国譲り」神話で、鹿島神宮と香取神宮の神々を道案内したのが息栖神社の神とされているからです。江戸時代初期に利根川の東遷が行なわれると、東国三社を舟で巡拝



①旧柏屋旅館跡地に計画中の観光拠点施設。認定特産品や農産物の販売、地場食材を生かしたレストランなど市の魅力を発信する拠点をを目指す ②柏屋旅館は木下茶船の推薦宿に指定され、多くの文人墨客が訪れた

1万7千人にもものぼったといえます。息栖神社の玄関口は息栖河岸。そのすぐ前にあった柏屋旅館は、指定宿として多くの客を迎え入れました。また、松尾芭蕉や吉田松陰など、

する物見遊山の旅が盛んになり、江戸時代中期には、お伊勢参りから無事に帰ったことを感謝する東国三社詣が大流行しました。木下茶船と呼ばれる乗合船の利用者は、年間約

そうそうたる文人墨客も息栖を訪れています。明治時代には、徳富蘆花が柏屋旅館に滞在。大正時代には華族や軍人が息栖河岸に下り立ち、リゾート開発が進む神之池周辺へと足

を延ばしました。その際、柏屋旅館がフォード車で送迎をしたそうです。**おおらかで活気あふれる  
昭和の頃**

息栖神社周辺の歴史をたどると、いつの時代も名前があがる柏屋旅館。地元の方にとつてどういう存在で、息栖神社とどういう関わりがあったのでしょうか。昭和20年代から30年代のエピソードを、息栖神社氏子総代会会長の巨寛行さんが話してくれました。

「子どもの頃の遊び場といえば、息栖神社に渡船場、柏屋旅館でした。息栖神社ではキャッチボールや木登り、かくれんぼをしたり、むしろの上に将棋盤を置いて将棋を指したりしました。夏はよく渡船場から川に飛び込んで水泳をしたものです。渡船が来ると、危ないぞ、あっちへ行け」と怒られてね。

私が小学生の頃、息栖神社の森で時代劇の隠密剣士や怪傑ハリマオが撮影されて、監督や俳優たちが柏屋旅館に泊まっていたのを覚えています。近くには映画館もあって、地域の「銀座」のような場所でした。勝手に旅館の2階へ上がって遊んでも

誰からも注意されず、おおらかな時代でしたね」

## 地域で愛された柏屋旅館

昭和40年代になると息栖神社周辺に大きな変化が訪れたと、氏子総代会責任役員の大塚光男さんは言います。

「鹿島開発の時、埋め立てにより息栖地区に代替地が整備され、ここに家が建てられました。その際、川の中に立っていた一の鳥居が、船溜まりのほとりに移されたんです。昭和48年には小見川大橋ができて、渡船もなくなりました」

しかし、息栖神社と柏屋旅館の密接な結びつきに変わりはありませんでした。

「私も含め地域の人はみんな、息栖神社で結婚式を挙げて柏屋旅館で披露宴をしました。鹿島神宮の神主が来て式を挙げてくれたんですよ。節分などの行事や七五三などの祝い事も、息栖神社で儀式を執り行ない、柏屋旅館で宴を催すという流れでした」

息栖神社は長年にわたって神主がいなかったため、柏屋旅館の主人が神職の資格を取って神主を務めていた時期もあったそうです。

## なぜ整備が望まれたのか

さて、近年になってパワースポット巡りや御朱印集めをきっかけに、東国三社詣のブームが再来しました。

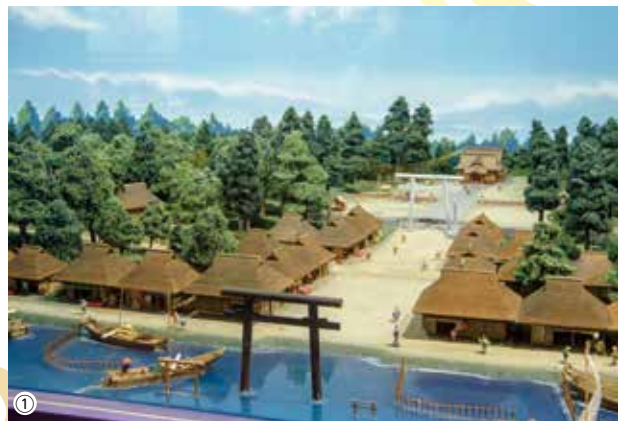
鹿島神宮や香取神宮に比べ地名度が低かった息栖神社ですが、たびたびメディアで取り上げられ、映画『弱虫ペダル』のロケ地にもなり、観光客が急増。大塚さんが現状を詳しく教えてくれました。

「全国から参拝客が訪れ、その数は令和元年には年間約20万人にのぼりました。当初は息栖神社という読み方が分からない人も多かったのですが、徐々に浸透してきました。前もって日本三霊泉の一つである『忍潮井』について調べてこられるように、案内しなくてもほとんどの人が見に行きます。」

個人客のほか団体バスで訪れる方も多く、旅行会社や鉄道会社など計13社が東国三社詣のバスツアーを実施しており、新たなツアーの企画も



巨さん(左)と大塚さん(右)



①江戸時代の息栖神社と参道を再現したジオラマ(歴史民俗資料館)  
②息栖河岸。一の鳥居の右奥に見えるのが柏屋旅館(大正～昭和初期)



複数あります」

このように息栖神社周辺は、新たな観光拠点として歴史・

人気・話題性とも申し分ありません。

市では大型バスも停められる駐車場を整備。本数は少ないものの、コ

ミュニティバスも運行されています。しかし、江戸時代からの重要な拠点

### 柏屋旅館ゆかりの品々

- ③ 祝事があったとき使用した三蓋盃
- ④ 息栖神社御遷宮記念盃(享年年間)
- ⑤ 旅館の鬼瓦
- ⑥ 仙台藩より寄贈された重箱

◎1月31日(火)まで、歴史民俗資料館でミニ展示「柏屋旅館ゆかりの品々」を開催





令和7年度に運営開始予定の観光拠点施設。江戸時代の息栖神社参道の町並みと、地域の人々に愛された旧柏屋旅館をイメージした建物

であった柏屋旅館は廃業し、現在は更地となっています。また周囲に飲食店や土産物店などがないため、せっかく訪れた



息栖神社周辺整備全体のイメージ図

観光客の滞在時間が短いことが悩みでした。それを解決するのが、今回の息栖神社周辺の整備計画です。  
**拠点施設から神栖の魅力を発信**  
整備計画の目玉は、旧柏屋旅館跡地に計画している観光拠点施設です。建物の外観は、江戸時代の参道に茶屋が並んでいた雰囲気と、地域のシンボルであった旧柏屋旅館を意識したものとなる予定です。ここをどのように活用する計画なのか、企画部

「神栖市の魅力を広く発信する拠点とすることを目指し、物販エリア、展示エリア、休憩所、カフェ、食事処などを設置します。物販エリアには市の認定特産品すべてと、地元の採れたて野菜などを取りそろえ、観光客にも市民の皆さんにも買い物を楽しんでいただきたいと考えています。展示エリアでは、息栖の歴史に加え、市内の観光スポットを紹介します。例えば春には、参拝後に神之池へ桜を見に来てもらうなど、市内への誘客を目指します。2階は、常陸利根川の眺望を楽しめる食事処の整備を検討しています。現在は基本設計を進めている段階で、令和7年度の運営開始を目指しています。今後、地元の皆さんと協力して拠点施設を盛り上げる仕組みづくりをしていく考えです。他に、参道は石畳風の舗装とし、船溜まり周辺の景観整備も進めていく計画です。将来的には常陸利根川に船着場を設ける構想もあり、



市政策企画課の木内さん

最後に大塚さんが「息栖神社に来るとなんだか心がホッとすると、という口コミが多いんですよ。松尾芭蕉の句碑にあるように、心に涼しい風がふっと吹き渡ったような印象があるという方もおられます」と、うれしそうに話してくれました。息栖神社周辺整備が完成するころ、この地にまた新しい時代の風が吹きそうです。



松尾芭蕉の句碑

「神栖市の魅力を広く発信する拠点とすることを目指し、物販エリア、展示エリア、休憩所、カフェ、食事処などを設置します。物販エリアには市の認定特産品すべてと、地元の採れたて野菜などを取りそろえ、観光客にも市民の皆さんにも買い物を楽しんでいただきたいと考えています。展示エリアでは、息栖の歴史に加え、市内の観光スポットを紹介します。例えば春には、参拝後に神之池へ桜を見に来てもらうなど、市内への誘客を目指します。2階は、常陸利根川の眺望を楽しめる食事処の整備を検討しています。現在は基本設計を進めている段階で、令和7年度の運営開始を目指しています。今後、地元の皆さんと協力して拠点施設を盛り上げる仕組みづくりをしていく考えです。他に、参道は石畳風の舗装とし、船溜まり周辺の景観整備も進めていく計画です。将来的には常陸利根川に船着場を設ける構想もあり、

「神栖市の魅力を広く発信する拠点とすることを目指し、物販エリア、展示エリア、休憩所、カフェ、食事処などを設置します。物販エリアには市の認定特産品すべてと、地元の採れたて野菜などを取りそろえ、観光客にも市民の皆さんにも買い物を楽しんでいただきたいと考えています。展示エリアでは、息栖の歴史に加え、市内の観光スポットを紹介します。例えば春には、参拝後に神之池へ桜を見に来てもらうなど、市内への誘客を目指します。2階は、常陸利根川の眺望を楽しめる食事処の整備を検討しています。現在は基本設計を進めている段階で、令和7年度の運営開始を目指しています。今後、地元の皆さんと協力して拠点施設を盛り上げる仕組みづくりをしていく考えです。他に、参道は石畳風の舗装とし、船溜まり周辺の景観整備も進めていく計画です。将来的には常陸利根川に船着場を設ける構想もあり、

「神栖市の魅力を広く発信する拠点とすることを目指し、物販エリア、展示エリア、休憩所、カフェ、食事処などを設置します。物販エリアには市の認定特産品すべてと、地元の採れたて野菜などを取りそろえ、観光客にも市民の皆さんにも買い物を楽しんでいただきたいと考えています。展示エリアでは、息栖の歴史に加え、市内の観光スポットを紹介します。例えば春には、参拝後に神之池へ桜を見に来てもらうなど、市内への誘客を目指します。2階は、常陸利根川の眺望を楽しめる食事処の整備を検討しています。現在は基本設計を進めている段階で、令和7年度の運営開始を目指しています。今後、地元の皆さんと協力して拠点施設を盛り上げる仕組みづくりをしていく考えです。他に、参道は石畳風の舗装とし、船溜まり周辺の景観整備も進めていく計画です。将来的には常陸利根川に船着場を設ける構想もあり、

「神栖市の魅力を広く発信する拠点とすることを目指し、物販エリア、展示エリア、休憩所、カフェ、食事処などを設置します。物販エリアには市の認定特産品すべてと、地元の採れたて野菜などを取りそろえ、観光客にも市民の皆さんにも買い物を楽しんでいただきたいと考えています。展示エリアでは、息栖の歴史に加え、市内の観光スポットを紹介します。例えば春には、参拝後に神之池へ桜を見に来てもらうなど、市内への誘客を目指します。2階は、常陸利根川の眺望を楽しめる食事処の整備を検討しています。現在は基本設計を進めている段階で、令和7年度の運営開始を目指しています。今後、地元の皆さんと協力して拠点施設を盛り上げる仕組みづくりをしていく考えです。他に、参道は石畳風の舗装とし、船溜まり周辺の景観整備も進めていく計画です。将来的には常陸利根川に船着場を設ける構想もあり、